

巴 杏

三次地区医師会報

No.181



令和6年11月発行



写真は今年8月に沖縄県西表島に旅行した時の水牛です。体温調節のために水に浸かっているそうです。

仕事と筋トレとゲームくらいしかせず、三次を離れることはほとんどありませんが、たまに旅行すると美しい景色や珍味に出会い、感動します。

こうした楽しみを味わうにも体力筋力心肺機能が必要で、トレーニングの重要性を再認識しています。皆さんも是非。

令和6年8月 加美川 誠

目 次

写 真	加美川 誠
巻頭言	
「史上初一史上最強一史上最多？」	
…………… 三次地区医師会 専務理事 鳴戸 謙嗣 ……	2
特別寄稿	
「君田温泉リニューアルオープンに寄せて」	
…………… 君田温泉支配人 柳澤 哲 ……	4
学術論文	
「アルツハイマー病による軽度認知障害(MCI)の診断と治療、連携について」	
…………… 三次神経内科クリニック花の里 院長 伊藤 聖 ……	8
「これからのダイアベティスケア～チルゼパチドを活用する～」	
…………… 二田哲博クリニック姪浜 院長 下野 大 ……	10
「緩和ケア・高齢者医療における不眠の診かた」	
…………… 広島大学病院 精神科 / 緩和ケアセンター 倉田 明子 ……	11
医師会長だより	
「かかりつけ医機能報告について」 ……	中西 敏夫 …… 13
医師会行事	
三次地区医師会 カーブ観戦ツアー	
…………… 三次地区医師会 広報担当理事 栗本 清伸 ……	15
令和5年度 第12回一般社団法人三次地区医師会 定時総会	
…………… 三次地区医師会 広報担当理事 栗本 清伸 ……	18
ブロックだより	
市立三次中央病院近況 …… 市立三次中央病院 病院長 永澤 昌 ……	21
随筆	
「宮島の鹿は飢えている」 ……	久行 敦士 …… 28
FAX 伝言板	
禁煙推進・受動喫煙防止活動報告 ……	安藤 仁 …… 30
会員紹介 ……	34
会員異動 ……	事務局 …… 44
医師会事業所現況報告 ……	事務局 …… 45
医師会日誌 ……	事務局 …… 46
編集後記 ……	安藤 仁 …… 48
写 真 ……	

史上初—史上最強—史上最多？



三次地区医師会 専務理事 鳴 戸 謙 嗣

観測史上最も暑かった夏が終わろうとしています。日本は亜熱帯になりました。

熱中症とコロナで発熱外来は忙殺され、救急医療体制も逼迫しました。

また、冷たい物の摂りすぎか胃腸の調子が悪い人が多かったように感じます。

高齢の患者さんと苛酷な夏を生き延びられてよかったと喜び合っています。

史上最強と言われた台風10号は常識外れでした。中心より遠くで雨・風が強くと竜巻が発生したり浸水したりと各地に被害をもたらしました。広島でも交通・物流を止め備えましたが幸い大きな被害はなく肩透かしされた気分です。子供の頃台風の日に入ると雨・風がピタッと止まり不思議だった記憶がありません。

台風は右に曲がると速度が上がると思っていました。台風10号は自転車位のスピード(15km/h)で山口から直角に曲がって四国・紀伊半島を横断し関東で消滅しました。台風は、自分で動けないので太平洋の高気圧で止められ、北極の温暖化で偏西風が北上していた事などが、影響したようです。

外圧でしか動けないなんてまるで日本政府

のようだと思ってしまいました。

岸田首相の退陣を受け自民党の総裁選がTVジャックしています。これもまた史上最多の立候補者数になるそうです。1人ずつ出馬表明をする日付けを変え、目玉対策？を訴えています。本命は外圧？もあり決選投票の結果K-3氏だろうと予想されています。何の実績ありませんが、政治改革を進める為、すぐに衆議院選挙を行うとの事です。立憲民主党も公明党も代表選挙がおこなわれます。政治不信が極まる中でも我々国民がしっかり考えるしかありません。

医師会長を辞し1年が経ちました。

個人的にはとても楽になりましたが、悠々自適とはいきません。人材不足から医療センターが病床再編を余儀なくされ、医師会事業所の今後を本気で考えなければならない状況です。大変な時期に医師会長に就任していただいた中西先生には感謝と申し訳ない気持ちで一杯です。専務理事として出来るだけ頑張る所存です。

三原医師会病院は山田病院と一緒に因島医師会病院も因島総合病院と統合します。市立三次中央病院の新築もあり、新たな地域

医療介護体制の構築が必要です。

医療センター、開業医、更には介護施設や在宅系サービスとの連携が必要になります。場合によっては再編を考慮せざるを得ないかもしれません。

人口減少社会が現実となった今、行政も含め医療介護に関わる全ての関係者の本気度が問われています。

追記

この拙文がお目に留まる頃には総選挙も終わり、日本の今後の方向が見えてくるかと思っています。11月には、アメリカの大統領選があり、世界情勢も大きく変わる可能性があります。

シン・ウルトラマンが期待した「人間」たちはどう動くのかが試されています。

映画「ツイスターズ」では科学で竜巻を消滅させていたが…。医学的に「真っ直ぐに進む台風」なんてアリエナイのか？



特別寄稿

君田温泉リニューアルオープン に寄せて



君田温泉支配人 柳澤 哲

長らくのご愛顧、誠にありがとうございます。そして、お待たせいたしました。君田温泉は2023年10月の一時閉館から10か月を経て、2024年8月1日に再び皆さまをお迎えできるようになりました。新たな運営体制のもと、これまでの施設にさらに魅力を加え、皆さまにとってより快適で心地よい空間を目

指しました。

申し遅れましたが、私は当施設の支配人を務めさせていただいております柳澤と申します。

君田温泉の再開に向けて、2024年4月から新しい運営事業者として準備を進めてまいりました。この間、地域の皆さまやお客様か



バレルサウナ

らの温かい応援の声に支えられ、再オープンに向けて全力を注いできました。皆さまの「君田温泉をまた利用したい」というお気持ちに応えられることを、とても嬉しく感じています。

今回のリニューアルでは、施設全体を見直し、さらに魅力的な温浴体験を提供できるように取り組みました。まず、男湯の屋外には新しくバレルサウナを設置いたしました。このサウナは、上質な木材を使い、自然のぬくもりを感じながら心身ともにリラックスして

いただける特別な空間となっています。自然を感じながら、ゆっくりとお楽しみください。

女性風呂の脱衣所も全面的にリニューアルし、パウダールームや授乳室、オムツ交換台を新たに整え、より快適に過ごしていただけるよう工夫を凝らしました。ご家族連れや女性のお客様にも安心してご利用いただける空間を目指しました。

また、宿泊施設も全てリニューアルし、君田の自然を存分に感じていただけるようなお部屋に生まれ変わりました。全ての宿泊プラ



パウダールーム



囲炉裏 豚肉入りつけうどん

ンには朝食と夕食が含まれており、地元の新鮮な食材を使ったお料理を楽しんでいただけます。さらに、宿泊者専用のラウンジではアルコールや珈琲を自由にお楽しみいただけるインクルーシブプランをご用意し、ゆったりとした時間をお過ごしいただけるよう工夫しています。

今回のリニューアルはこれで終わりではありません。君田温泉はこれからも段階的に進化を続けてまいります。9月には新しくドッグランをオープンし、ペット連れのお客様にもお楽しみいただけるスペースが加わりました。10月にはRVパークがオープンして、車中泊をされるお客様にも快適にお過ごしいただけます。さらに、今秋には「森のベーカーリー」もオープンし、焼きたてのパンや美味しいコーヒーを楽しんでいただけるカフェスペースもご用意します。君田の自然の中で、ゆったりとした時間を過ごしていただければ幸いです。

リニューアルオープンの準備期間中、地域

の方々やこれまでご利用いただいたお客様からたくさん励ましや期待の声をいただきました。「また君田温泉に行きたい」「リニューアルしたら必ず訪れたい」といった言葉が、私たちの励みになり、さらに良い施設を作り上げる原動力となり、こうして8月1日に皆さまをお迎えできたことを心から嬉しく思っております。

リニューアル後、多くの方々にお越しいただき、「また来れて本当に良かった」「待ち望んでいた君田温泉が戻ってきて嬉しい」といった声をたくさんいただいています。これからも皆さまの声に耳を傾けながら、君田温泉が「癒し」と「笑顔」を提供できる場所であり続けるよう、スタッフ一同力を合わせてまいります。

最後になりますが、今回のリニューアルに際してご支援、ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。これからも、君田温泉をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。皆さまのご来館を、心よりお待ちしております。



ラウンジ



大和室



夕食

アルツハイマー病による軽度認知障害 (MCI) の診断と治療、連携について

三次神経内科クリニック花の里 院長 伊 藤 聖

軽度認知障害 (MCI) とは知的機能の低下はあるものの社会生活には支障をきたしていない状態です。その対応は社会の理解や介護が主となるものの、認知症をきたす原因の多くは神経変性疾患や内科疾患であり、認知症の対応に医療の関与は欠かせません。

MCI は症状に記憶に問題があるかないか、障害される領域が単一か複数領域かで amnesic MCI single domain, amnesic MCI multiple domain, non-amnesic MCI single domain, non-amnesic MCI multiple domain の 4 つのサブタイプに分類されます。このうち amnesic MCI は non-amnesic MCI と比較してアルツハイマー病への移行率が高いと報告があります。

過去に報告されたシステマティックレビューにおいては MCI は平均で年間約 10% が認知症に移行すると報告されています。そのため MCI はアルツハイマー型認知症早期発見の重要な手がかりになると考えられます。

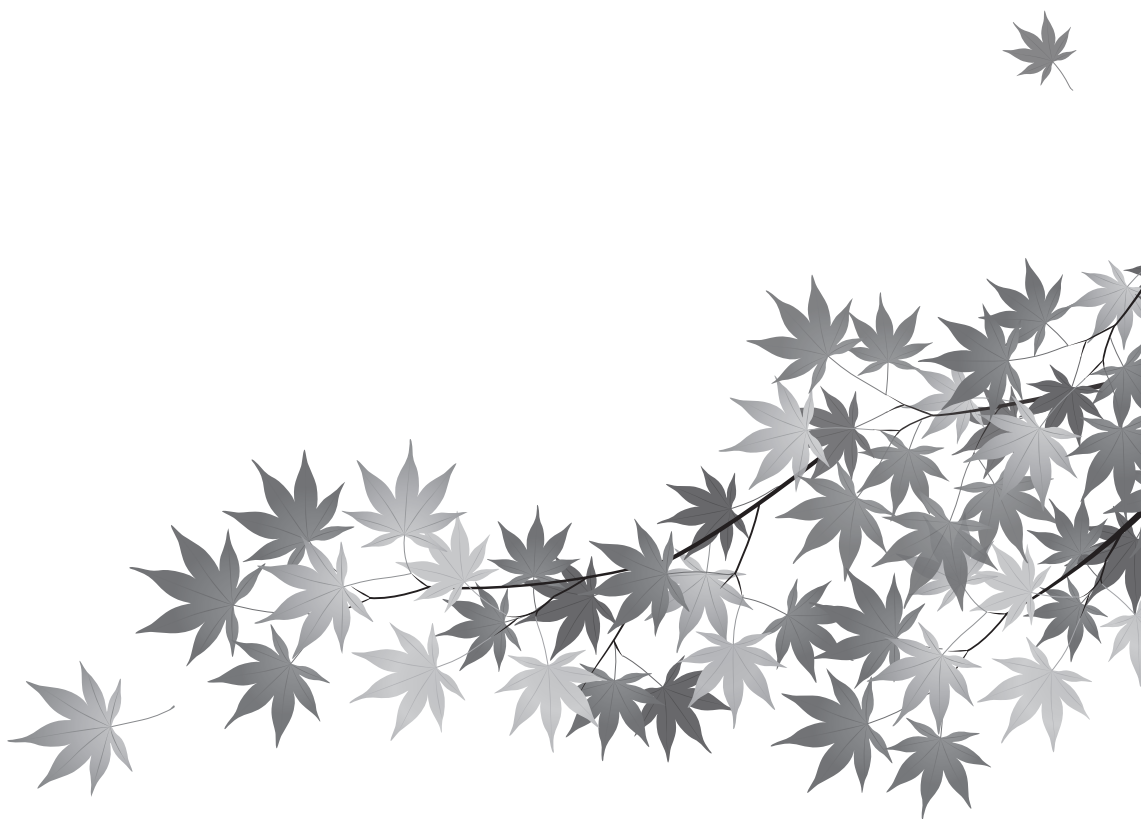
当院は広島県認知症疾患医療センターに指定されており、平成 30 年の統計では MCI は新規に受診された人の約半数となっています。受診の形態として物忘れなど認知機能障

害を自覚して一人で受診される方、家族に指摘されて受診される方、職場でおかしいと言われて受診される方など認知機能障害に関する訴えがある人のほか、運転免許証の更新時に認知症が疑われて診断書作成目的に受診し MCI の診断に至る方もあります。

昨年末、アルツハイマー病疾患修飾薬が上梓されました。新規アルツハイマー病治療薬 (ヒト化抗ヒト可溶性アミロイド β 凝集体モノクローナル抗体) の適応となる患者は、MMSE (mini mental state examination) が 22 点以上かつ臨床認知症尺度で 0.5 から 1 である MCI から初期認知症患者で、髄液検査または PET 検査でアミロイドの蓄積が証明されている患者に限定されます。これらの条件からもわかるように、従来の抗認知症薬と異なりバイオマーカーを使用したより精確な診断が必要であり専門医との連携が欠かせません。また本薬剤投与後に ARIA (Amyloid-Related Imaging Abnormalities) が報告されており、リスクを避けるために投与前のスクリーニングでリスクを評価し投与後の頻回な MRI 検査を行う必要があるため投薬できる施設に制限がかかっています。

アルツハイマー病による MCI を適切に治

療するためには軽度の認知症患者を診た場合に専門医療機関の受診が必須となり、これまでよりも密な医療連携が行われることが望まれます。治療可能な認知症を見逃すことは患者さんの不利益になります。是非認知症専門医、専門医療機関を上手に活用していただきたいと思います。



これからのダイアベティスケア ～チルゼパチドを活用する～

二田哲博クリニック姪浜 院長 下 野 大

J-DOIT3やUKPDS88などの大規模スタディに示されるよう、糖尿病治療における血糖マネジメントは、より早期に血糖変動を正常に近づけることが重要と考えられる。食事療法や運動療法といった非薬物療法や、病態に応じた薬物療法を行うこととなるが、今回、薬物療法の選択肢として2023年4月より使用できるようになったチルゼパチドについて解説する。

食事量に応じたインスリン分泌の調節は、GIPとGLP-1という2つのインクレチンによって主に制御されており、そのいずれもが正常耐糖能を維持するために必要である。チルゼパチドはGIPおよびGLP-1のいずれの受容体にも作用するため、両経路から血糖変動を正常に近づける作用を持つと考えられる。また、GIPは薬理的な濃度では食事摂取量を減らし体重が減少するという動物実験の報告があり、GLP-1受容体への作用と併せ、チルゼパチドは体重に影響があると考えられる。

SURPASS J-mono および SURPASS J-combo 試験では日本人におけるチルゼパチドの作用および安全性・忍容性について検討

された。この試験では、チルゼパチドの単独療法でHbA1cは5mg/週群で2.4%・10mg/週群で2.6%・15mg/週群で2.8%低下しており、GLP-1受容体作動薬であるデュラグルチドよりHbA1cの低下が大きいことが報告されている。また、チルゼパチドは単独療法においても併用療法においても消化器症状が気をつけるべき有害事象であり、SU薬およびグリニド薬との併用で低血糖の出現率が上昇すると考えられている。

チルゼパチドは血糖マネジメントに有効な手段であるが、投与の際に考えられるリスクは低血糖（SU薬・グリニド薬・インスリン製剤との併用時）、胃腸障害（特に投与初期と増量期）、過度な体重減少などであり、これらに配慮しながら適正に使用する必要がある。

（令和6年8月5日開催）

緩和ケア・高齢者医療における不眠の診かた

広島大学病院 精神科 / 緩和ケアセンター 倉 田 明 子

一般診療において、身体疾患を持つ患者に不眠をはじめとした睡眠障害を診察する機会は多い。不眠症状自体が生活習慣病などの身体疾患を悪化させて生命予後の悪化につながったり、不眠がうつ病などの精神疾患の初発症状であったりするため、不眠の診たてや治療を適切に行うことは患者の心身の健康のために重要である。

不眠の対応に際しては、睡眠薬が必要な不眠か、睡眠の病気はないかなどの診たてが重要である。睡眠薬の処方の際には、短期的な催眠作用だけでなく、過鎮静や転倒のリスク、依存・耐性の形成、せん妄のリスクなどのデメリットを最小限にする配慮が必要である。ベンゾジアゼピン系薬剤は上記の副作用リスクから安易に処方すべきではなく、特に高齢者や緩和ケアの対象患者ではオレキシン受容体拮抗薬やメラトニン受容体作動薬などの薬剤を中心とした処方を検討する。ベンゾジアゼピン系薬剤の問題点として常用量依存があり、ひとたび常用量依存が形成されると変薬や減量が困難になる場合が多いため、初回に処方する睡眠薬の選択が重要である。ただし、精神疾患を持つ患者や、他の薬剤が無

効な場合、強い不眠のために身体疾患の悪化が懸念される場合などは、ベンゾジアゼピン系薬剤を含めた睡眠薬の継続的な投与が許容される場合もあるため、不眠の背景を評価する必要がある。

緩和ケアにおいては、痛みや呼吸困難と不眠が合併している場合も多い。痛みによる不眠を呈すると身体症状に過敏になり、些細な変化から不安となって痛みを強く感じる、といった悪循環を生じる場合がある。その場合、痛みを緩和することが第一ではあるが、同時に不眠に対する環境調整や睡眠薬の選択、過剰モニタリングを避け、リラクゼーションや心理教育、不安に対する支持的対応など、多面的な対応が求められる。

高齢者の睡眠においては、総睡眠時間の減少、深睡眠の減少、中途覚醒の増加が生理的変化として生じることを念頭に置く必要がある。厚生労働省の「健康づくりのための睡眠ガイド 2023」では、高齢者は床上時間が8時間以上になるとむしろ健康リスクが高まるということが指摘されており、8時間以内の臥床時間で日中の昼寝を30分以内とするなど、昼

夜リズムをつけ、睡眠休息感を高めることが推奨されている。よって、不眠の訴えのままに睡眠薬を処方するのではなく、まず「何時に床にはいるか」「何時から何時まで寝ているか」「日中はどのように過ごしているか」など、詳細な問診に基づいた睡眠衛生指導が重要である。



かかりつけ医機能報告について



三次地区医師会 会長 中西 敏夫

かかりつけ医とは「健康に関することをなんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介してくれる、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」と定義されています（厚生労働省ホームページ）。またこのホームページにはかかりつけ医を持つメリットなどが紹介されています。

かかりつけ医の機能を評価する「機能強化加算」が、平成30年の診療報酬改定において所定の要件を満たした診療所と200床未満の病院で初診時に80点の加算が新設されました。届け出要件は次のいずれかを満たしていることです。地域包括診療加算、地域包括診療料、認知症地域包括診療加算、認知症地域包括診療料、小児かかりつけ診療料、在宅時医学総合管理料（在宅療養支援診療所または在宅療養支援病院に限る）、施設入居時等医学総合管理料（在宅療養支援診療所または在宅療養支援病院に限る）です。

その算定要件については中医協では支払側委員と診療側との意見の隔たりはありますが診療報酬改定のたびに詳細な要件が加わり今後さらに厳格化されていくものと考えられます。

同じくかかりつけ医機能を評価する「地域包括診療加算」の届出要件の概要は慢性疾患の指導に係る適切な研修を修了した医師を配置していることですが、ご存じのように日本医師会生涯教育制度研修にあたります。また日本医師会は平成28年から「日医かかりつけ医機能研修制度」をもうけ都道府県が実施主体となっています。

令和6年の診療報酬改定による届け出要件の詳細についてはその内容をご確認のうえ厚生局に届け出ください。

令和6年現在、機能強化加算（機能強化）を届け出ている広島県の医療機関（病院は割愛します）は診療所2,173中503施設、地域包括診療加算（地包加）は263施設です。三次市では診療所数44施設で機能強化19施設、地包加は18施設です。広島2次医療圏域には診療所数1180施設ありますが、機能強化は250施設、地包加127施設ですから、いかに三次市の診療所は「かかりつけ機能」を果たしているかが明らかです。ちなみに同じ広島2次医療圏域の過疎市町である安芸高田、安芸太田、北広島町の診療所数は32施設と少なく機能強化は11施設、地包加算は6施設です。過疎地町の施設では届け出要件を満

たせない診療所もあり、少ない医療資源をどのように活用するか大きな課題です。

かかりつけ医の議論のなか令和5年5月に「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律」が成立しました。概要の項目は以下の通りです。

- (1) 医療機能情報提供制度の刷新
(令和6年4月施行)
- (2) かかりつけ医機能報告の創設
(令和7年4月施行)
- (3) 患者等に対する説明
(令和7年4月施行)

「かかりつけ医機能報告」については「かかりつけ医機能が発揮される制度の施行に関する分科会」で激しい議論が行われました。委員の意見の一部です。「財政を抑制したい側からの主張では、要件設定で手挙げをする医療機関を制限し、報告医療機関数を絞るもの」と問題視。地域の医療資源には限りがあるため、より多くの医療機関が手挙げして現状を報告、地域で不足している医療機能があれば、協議により拡充を目指す、これまで築き上げてきた患者と医師の信頼関係が壊されかねない点が制度設計上、極めて重要等々です。

多くの議論が重ねられ、令和6年7月に制度の概要がおおむね固まりました。厚生労働省の「かかりつけ医機能が発揮される制度の施行に関する分科会」の議論は25ページの報告書に整理されとして厚労省のホームページに掲載されています。興味のある先生は時間のあるとき一読されることをお勧めします。まだまだ議論の余地があり5年後の見直しが明記されている項目もあります。

かかりつけ医機能報告制度は、医療法上、次のような立て付けとなっています。対象医療機関（特定機能病院・歯科診療所以外のす

べての病院・診療所）は、「継続的な医療を要する者に対する発生頻度が高い疾患に係る診療、その他の日常的な診療を総合的かつ継続的に行う機能」を持っている場合にはその機能の内容を都道府県に報告する(1号機能)。

対象医療機関のうち「1号機能を持つ医療機関」は、時間外の診療、病状が急変した場合の入院支援、病院等からの退院支援、在宅医療対応、介護連携などの機能を持っている場合にはその機能の内容を都道府県に報告する(2号機能)。

具体的にはかかりつけ医機能に関する研修修了者の有無、総合診療専門医の有無を報告、17診療領域ごとの一次診療対応可能の有無を報告するなどです。県はこの報告を受けどのような医療機関がどのようなかかりつけ機能を持っているかを医療機能情報提供制度で公表し、地域の協議の場で不足する機能や目指すべき姿を議論することとなります。

まさに地域医療提供体制の検討そのものです。地区医師会としてはすべての関係機関と共に協議していかなければなりません。また先生方の意見をお聞かせください。



三次地区医師会 カープ観戦ツアー



三次地区医師会 広報担当理事 栗本清伸

令和6年9月12日、三次地区医師会主催のカープ観戦ツアーが開催されましたので、ご報告いたします。

ここ数年、猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、医学的にはまだまだ予断は許さない状況ですが、社会的にはかなり落ち着きを取り戻し、音楽やスポーツのイベント、飲食店での飲み会などは、かつての状況を取り戻したように思えます。しかし、コロナ前と同じ状況に戻るということは難しく、三次地区においても、これまで医師会主催の忘年会や歓送迎会の会場となっていた結婚式場がコロナ禍の中ひっそりと閉鎖され、気が付けば医師会全体で親睦を図る場所が三次市内からなくなってしまいました。また、各ブロックの医会で行われていた夏の行事や秋の旅行、冬の忘年会などは未だ開催されずにいると伺っています。

理事の間でも、なにかしらのイベントを企画して、医師会員相互の親睦を図り、コロナ禍から続く閉塞感から抜け出そうという話はありませんでしたが、このたび、中西会長をはじめとする執行部の先生方の提案で、医師会員相互の親睦を目的としたカープ観戦ツアーを開催することとなりました。

当日の試合は、マツダスタジアムでのジャイアンツ22回戦、18時プレーボールです。三次ワイナリー前の駐車場に15時過ぎに集合し、15時30分、約40名の参加者が大型バス2台に分乗し出発しました。道中、かなり強い雨に見舞われるも、17時過ぎに現地に着くと、雨は上がり、いよいよプレーボールです。

昨シーズンのカープは新井監督のもとセ・リーグの2位に躍進したにもかかわらず、今シーズンのカープに対する評論家の下馬評は非常に低く、Bクラス予想が大半でした。しかし、いざ開幕すると、床田、大瀬良、九里、アドゥワを中心に先発陣が相手打線を抑え、打線は小園を中心につなぐ攻撃で少ないチャンスをモノにする粘り強い攻撃を見せ、鬼門の交流戦ではマリーンズ戦で大瀬良がノーヒットノーランを達成し、勢いそのままに6月には首位に立ちました。さらに、8月上旬には7連勝を記録し、首位をキープ。9月がセ・リーグ優勝への山場になるという絶好の展開（のはず）でした。

ところが、9月に入ってからカープは、今までの粘り強さが影を潜め、連敗で首位をジャイアンツに明け渡すと、10日からの首

位攻防3連戦の初戦を落としてしまいます。翌11日は、ジャイアンツの先発グリフィンから2点を奪い、リードを保ったまま満を持して最終回に守護神の栗林を投入するも、まさかまさかの大炎上。なんと9失点で悪夢の敗戦。その悪夢から覚めやらぬまま、私たちはスタジアムに到着したのです。

観戦した団体席は、外野のレフト後方に今年新設された「すごいびっくりテラス」です。グランドレベルで見ることができ、選手が間近にプレーするので臨場感を味わうことができました。また、室内は広く、ソファでくつろぎながら観戦でき、空調も完備されて雨上がりの蒸し暑い中、快適に観戦できました。また、バーベキューがセットになっており、お肉や焼きそばを楽しみながら観戦すること

ができました。

肝心の試合はというと、先発は11勝を挙げているカープ床田と、10勝のジャイアンツ戸郷。カープは序盤に先制のチャンスを2度も逃すと、3回にエラーも絡んでジャイア



思い思いに応援する参加者の皆さん



臨場感ある観戦席



みなさん、楽しい時間を過ごされました



空調の効いた部屋でゆったり観戦



試合内容は・・・

ンツに先制を許します。カープは6回に満塁のチャンス、8回には一三塁のチャンス逃してしまい反撃に出ることができません。結局、9回にジャイアンツにダメ押しの2点を奪われて、万事休す。首位攻防3連戦を3連敗、チームの連敗を4まで伸ばし3位阪神に追い付かれてしまうという、前日の悪夢の続きを見ているような試合でした。なお、この悪夢はそのままシーズン終了まで続くことを、この時のわれわれは知る由もありませんでした。

平日夜のナイター観戦ということで、8時30分に帰宅するグループと、9時過ぎに帰宅するグループの2つに分かれて帰路につきま



料理の腕を振るう筆者

した。ツアーは終始和やかで、参加者の皆様はプレーに一喜一憂しながら熱い応援をされ、大きなトラブルなく無事に観戦ツアー終えることができました。

なにぶん初めての試みであり、またカープの活躍もあって、団体席は木曜日のナイターしか確保することができず、診療のため参加を断念された方も多かったと存じます。次回はなるべく多くの方が参加できるよう、週末の試合を押しえられるように努力したいと存じます。

最後に、ツアー開催をお手伝い頂いた事務局の皆様、私と一緒にバーベキューのお肉を焼いていただいた立本先生、ツアーを手配していただいた内外旅行社の皆様深く御礼を申し上げます。



立本先生、お手伝いありがとうございます



集合写真

令和5年度 第12回 一般社団法人三次地区医師会 定時総会



三次地区医師会 広報担当理事 栗本 清 伸

一般社団法人三次地区医師会の定時総会が、令和6年6月5日（水）19時より、三次グランドホテルで開催されました。

総会に先立ち、山田博隆議長が出欠者・委任状の確認を行い、総会の成立を宣言されました。

議事録署名者指名のあと、新入会員の紹介があり、令和5年11月に新規開業された「三次こばやし眼科」の小林隆幸先生が、入会のご挨拶をされました。

その後、山田議長の指名により、中西敏夫会長が以下の内容の挨拶をされました。

「皆様と対面で総会を開催できることをうれしく思います。昨年、医師会長を拝命いた

しまして、1年が経ちましたが、医師会を取り巻く状況は大変厳しく、この4月から看護師不足で医療センターの3階病床を閉鎖せざるを得ない状況になっています。安信病院長と一緒に各医療機関を訪問させていただき、これまでの状況と今後のご支援についてご説明させていただきました。皆様からは厳しくも暖かいお言葉を頂戴し、大変励みになりました。皆様にはこれからも、医師会運営にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年の診療報酬改正は、まるで医療界の分断を煽るような内容で、大変厳しいものでした。各医療機関を訪問し先生方のお話を伺っていると、地域で病院や診療所を経営するの



新規開業された小林隆幸先生のご挨拶



中西会長のご挨拶

は本当に大変であるということを実感しました。三次地区では、開業会員の皆様と市立三次中央病院をはじめとする勤務医の皆様が協力して頑張っているよう、医師会として取り組んで参る所存ですので、どうかよろしくをお願いいたします。」

総会はその後、上程された令和5年度決算報告の審議に移り、各事業の担当理事による説明がありました。これらについて山田議長が議場に諮ったところ、いずれの議案も賛成多数で承認されました。

令和5年度の医師会の各事業は、いずれも新型コロナウイルス感染症や人手不足の影響が深刻で、何とか法人全体での赤字決算は免れましたが、今後の見通しは非常に厳しいものと言わざるを得ない状況でした。

このことを受けて、令和6年度の三次地区医療センター予算について、安信理事より、改めて以下のような説明がありました。

「医療センターの令和6年度事業計画及び予算について、人材不足により非常に厳しい状況にあります。人材の確保はすぐに解決に

できるものではありませんが、地域医療に貢献するという医療センターの使命は変わらないので、今年度は「覚悟と挑戦」をスローガンに、3階病床を閉鎖してスタッフの再配置を行い、2階と4階の受け入れ態勢の充実を図りました。また、地域包括ケア病棟への転換、回復期リハビリ病棟の運用効率化、多職種が関与して在宅復帰率の向上など、より高い収益性を目指し運営していく所存です。そのために、口腔管理について歯科医師会と協議するなど、外部機関とも連携を図って参ります。なお、今後の3階病棟については、スタッフの充足状況を勘案し、執行部と協議しながら検討を進めていく予定です。

このような厳しい状況の中で地域医療に貢献していくためには、医師会会員の皆様のご理解とご協力が不可欠だと考えております。今後も引き続き医師会病院として最善を尽くしてまいりますので、会員の皆様のご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。」

議長は、令和6年度予算について質問等があれば医師会に連絡するよう説明し、20時10分に総会の終了を宣言しました。



第12回定時総会



医療センターの事業計画を説明される安信副会長

総会終了後、隣室に移動して懇親会が開催されました。中西会長、安信副会長、岡崎副会長を囲み、役員の方との交流を深めました。非常に厳しい経営状況の中、中西会長と安信副会長が、4月から順次、各会員の医療機関に医師会の状況を説明して回られました。人口減少による患者数の減少、人手不足、医師の高齢化などは、医師会の皆様に共通す

る課題であり、私も自院の院長として中山間地域での医療機関の運営に多大な苦労があること痛感しております。地域医療の抱える課題は山積みですが、それらの課題に医師会全体で取り組んで行ければと思います。これからも三次地区医師会をよろしくお願いいたします。



恒例の大谷副議長による乾杯のご発声



懇親会

市立三次中央病院近況



市立三次中央病院 病院長 永澤 昌

恒例となります。令和6年度、市立三次中央病院の近況をお届けします。

(4月に作成のものを8月に加筆しました)

■新入職員、医師の異動と診療体制

今春に43名の新入職員を迎えました。内訳は、医師18名、看護師20名、臨床検査技師1名、理学療法士2名、診療情報管理士1名になります。早速、四月一日より新入職員研修が始まり、プロフェッショナル意識を持っての現場対応の実践能力を身につけていってくれました。

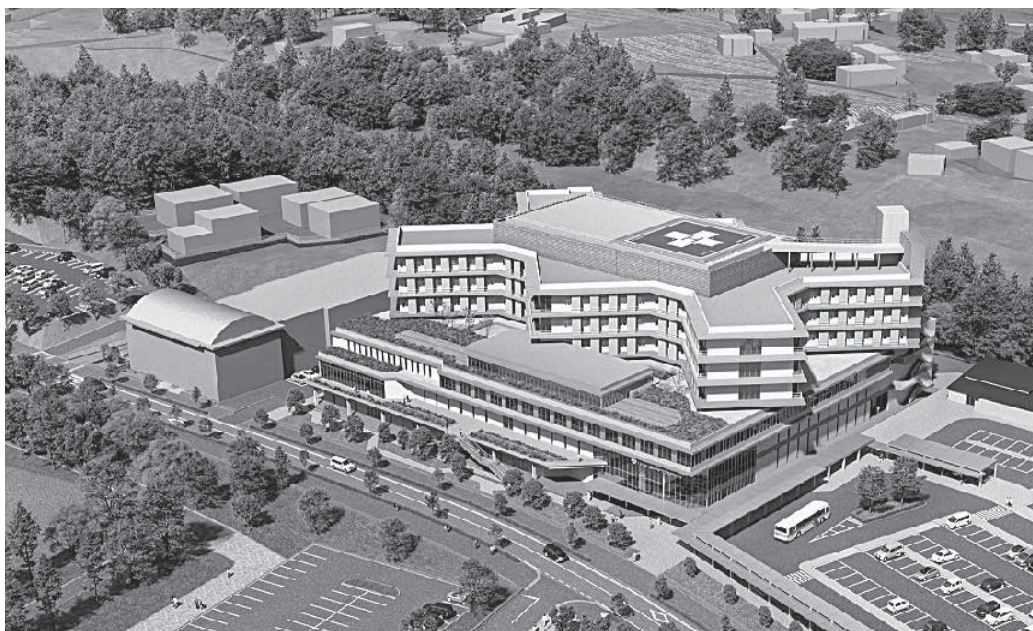
医師の交代人事については、新入職の18名の他に初期研修医から後期研修医となり残っている2名を加えた20人の異動がありました。末尾表にまとめましたので、ご参考としてください。内容としては、リウマチ・膠原病科が常勤になりました。また、泌尿器科、耳鼻咽喉科、腎臓内科の増員配置があります。産婦人科ではこの春に4名のうちの3名が入れ替わりました。さらに、10月に2名が異動となります。4月より産婦人科主任医師の関根先生はロボット手術のインストラクター資格もありますので、今年度導入される手術用ロボットの積極的活用が期待されて

いましたが異動となり、不安を感じたのですが次期医長の亀先生がしっかりと取り組んでくれます。消化器内科は1名の減員となりました。昨今の内科、特に消化器内科、循環器内科志望者の減少は地域医療現場の医師確保に大きく影響することとなりますので、内科医の確保対策に県全体で取り組む必要が出ています。皮膚科についてご通知内容があります。芦澤医師と天野医師が赴任されました。しかし、天野医師は家庭の事情から時間外業務および当直業務が難しいため、皮膚科の時間外救急体制を庄原赤十字病院との交替性で行います。その日の当番医への転送になると存じます。特に、休日における受入体制は変動することがありますので、よろしくご理解のほどをお願いします。

■病院建替について

病院は、1994(平成6)年に現地に新築移転してきてから30年が立ちました。医師数は移転時の約40名から今年度で約90名にまで増えていますが、それに伴い医療機能もどんどん拡充しています。今年度ではロボット手術も行えるようになります。

医師・看護師、他医療スタッフの増員と機



新病院イメージ図（山下設計提供）

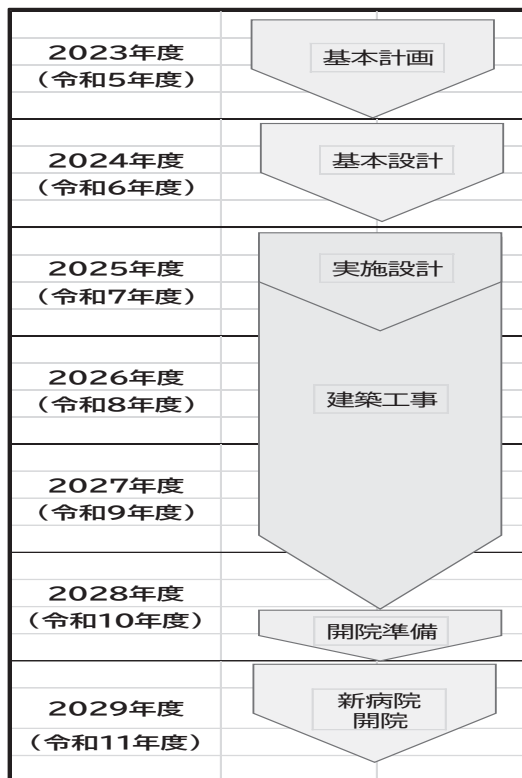
能拡充により施設の狭隘化が顕著となりました。また、トイレの使いにくさ、廊下の移動困難、患者説明場所不足などが患者満足度調査での不評項目となっています。さらに、休憩スペースや更衣室がない職員もいる状況です。

5年後の2029（令和11）年度での新病院開院を目指して、病院建替計画が進行しています。今年度は基本設計を行ってます。この3月末に設計業者が山下設計に決まりました。

秋にかけて、部署ヒアリングを行いながら設計内容を煮詰めているところです。詳細な設計内容がまだ決まっていないので、次回のお話になります。

■療養環境改善中

患者満足度調査、投書での要望の強かった売店の新規拡充が昨年十二月に、また病棟でのWiFi環境整備がこの3月で整備できました（病院広報紙はなみずき5月号裏表紙参照）。



新病院建築工程表

多くの市民の皆様と職員の声が後押しになりました。ポプラ系列のコンビニ“生活彩家”は患者さんと家族だけでなく職員にも好評です。これからも多くの声をいろいろな方面から集めることが大切です。

■医師の働き方改革

病院長が医局会を通じて、医師に繰り返し伝えていることは、「**医師も労働者**」であり、すべての労働者に求められる「**労務管理**が、医師にも求められる」ということです。その考えにより、以下の4つのことを医師・診療部に求めています。

1. 時間外労働削減に努める

月に80時間以上の時間外労働にならないこと、万が一80時間超えでは面接指導実施医師による面接指導を受けることが義務として課されます。

2. 休暇の取得

夏休み(3日)、リフレッシュ休暇(2日)の取得を、各診療科主任医長の管理下にて計画的に実施してもらうこと、加えて、所属医師の計画的年休取得(5日以上)の状況を主任医長は把握管理してもらうこと、そして医長が率先して5日以上年休を取得することを要求しています。

3. チーム医療の推進、複数主治医制の確立

患者一人に医師一人の関係から、複数医師の担当とすることを要求し、患者さんにも通知させていただきます。呼ばれていないのに、夜間休日に来ることは避けてもらうように医師には指導します。

4. 業務の効率化：時短でも同じ効果を生む工夫と業務改善、ON-OFFの切り替え

一般会社では当たり前の考え方が医療現場でも求められることとします。

なお当院の医師の多くは、昨年度までの働き方改革により基本的に年間960時間以内の時間外労働に収まるA水準になっています。研鑽ないし地域医療のニーズから年間960時間以上の時間外労働が当面許容されるC水準に整形外科、循環器内科を届出しています。今年度で全員がA水準となることが目標であり、達成できる見込みです。

■日本医療機能評価機構による第三者評価受審(令和6年2月1-2日)

第三者による客観的評価は、病院運営・業務運用においてはPDCAを回す推進力になります。現状の課題を自覚できる契機として重要な仕組みです。

結果、88の評価項目中、S評価が1項目、A評価74項目、B評価11項目、C評価2項目でした。C評価項目について、再審査を受け報告しB評価に修正いただけました。

ちなみに、評価の定義・考え方は、S：秀でている、A：適切に行われている、B：一定の水準に達している、C：一定の水準に達しているとはいえない、となっています。

S項目は、3.2.6「救急医療機能を適切に発揮している」です。

【適切に取り組まれている点】 断らない救急を実践している。二次医療圏域である備北消防からの救急要請応需率は98%である。それ以外の近隣医療圏からの救急要請にも対応している。さらに、地域の外科と小児科の急患はすべて引き受けている。人員としては、

救急医1名、当直医2名、看護師8名のチームである。医師間の応援、救急外来と一元管理している2階（救急）病棟およびICUからの看護師の支援体制をとり、同時複数患者にも対応している。地域のメディカルコントロール協議会で中心的役割を担っている。受け入れが出来なかった例では、その状況や原因を医師・看護師で分析している。質評価として、重症患者の来院からICU入室・血管造影室入室・手術室入室までの時間をデータ収集し、さらなる改善策を検討している。必要時にはドクターヘリも運用し、広域搬送を行っている。一人暮らしの低栄養など、社会的虐待事例を中心に、社会的援助に結びつける支援を行っている。救急医療機能は高く評価できる。

C項目で改善を要した項目は以下のふたつです。

1.1.6「臨床における倫理的課題について継続的に取り組んでいる」

4.3.1「職員への教育・研修を適切に行っている」

1.1.6「臨床における倫理的課題について継続的に取り組んでいる」

2009年に定めた方針の見直しと全体としての方針の明文化と組織体制が脆弱と評価されました。指摘事項を転記します。

【課題と思われる点】

病院の主要な倫理的課題の方針が定められておらず、現場で解決が困難な倫理的課題について、組織として検討する場が現在はない状態となっている。病院の特徴や診療機能上予測される主要な倫理的課題について、委員会などで項目と針を定めて明文化し、現場で解決が困難な事例を検討するなど、組織として検討する仕組みを構築することが求められる。

4.3.1「職員への教育・研修を適切に行っている」

よくやってはいるが、全体を把握し計画的にされたい、との評価でした。指摘事項を転記します。

【課題と思われる点】

全職員に必要な教育・研修については、全体を統括する部門や委員会が明確でなく、各委員会が開催する各々の担当分野の研修は計画的・継続的に実施されているものの、それ以外の必要な研修は、計画的・継続的に実施されていない。全職員の継続的な教育・研修を統括する部門または委員会等を明確にしたうえで、患者の権利や医療倫理、虐待対応などを含む病院として必要な研修の年間計画の策定、実施した研修の受講率の把握および参加者からのフィードバックなどによる理解度の把握および研修の評価を病院として実施することが求められる。

受審では、全体的にガバナンスの不足している項目をしっかりと指摘していただいたので、受審してよかったと思います。次世代による、次の受審を期待します。

■備北メディカルネットワークの活動としての地域フォーミュラリ推進の取組み

令和5年度後半よりの取組みです。大きくふたつの事業を行っています。

1. 地域フォーミュラリ作成

第一陣として、令和5年8月31日にARB、PPI、スタチンを登録済み

第二陣として、令和5年12月20日に(2型糖尿病用)α-グルコシダーゼ阻害薬、第2世代抗ヒスタミン薬、消炎・鎮痛剤(内用剤)を登録済み

第三陣として、口腔領域小手術後の抗菌薬、経口ビスホスネート製剤、ヘルペス

治療薬について作成し、令和6年6月11日に登録しました。当院ホームページをご覧ください。

2. フォーミュラリによる医療経済への効果

地域フォーミュラリは、病院フォーミュラリと比べて薬剤費の適正化、標準的な薬物治療における影響が大きいことがわかっていて、国・県が推進事業を展開しています。

昨年度より参加四病院の処方数を追跡していますが、今年度は基金よりの情報を得て、備北全体の後発医薬品の処方推移を追跡することとしています。

さらに、患者への影響を観察する臨床試験を開始します。まず、降圧薬について後発品に変更した前後のバイタルを観察しての非劣性試験を準備中です。

事業の概要と地域フォーミュラリ資料については、当院ないし三次地区医療センターホームページをご覧ください。当院 URL と QR コードを掲載します。

<https://www.miyoshi-central-hospital.jp/personnel/bihoku-medicalnetwork/>



■これからの高齢者医療は在宅医療が中心になるでしょう

2040年ころまで高齢医療の需要が増える見込みです。たとえば、骨折、脳卒中、急性心不全が増えていくことが見込まれています。備北地区は病院が少ないこともあり、これらの疾患の救急・急性期医療の提供をほぼ当院が担うこととなります。加えて、がん診療のさらなる充実も求められています。新病院への期待も大きく、広島県の保健医療計画

(第八次)でもこのことが明文化されます。

また、地域では交通手段を持たない独居高齢者が増えています。これからは、病院から地域へ出ていくことが求められることとなります。その一環として歯科診療車をこのたび導入しました。病院広報紙はなみずき5月号6頁の記事をご覧ください。

別に、備北地区には一台の移動診療車があり、平成24年より庄原市を中心に運行しています。しかし、経年劣化があり、修理をすることが多くなっています。

(県資料・第8次広島県保健医療計画/

備北二次保健医療圏を参照してください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/571330.pdf>



三次市でも今後は、地域診療所の医師の皆様の高齢化から閉所が起ってきます。移動診療車が活躍する時期はそう遠くないと考えられ、移動診療車の更新購入や増車も検討されているところです。

■医療・介護従事者の確保が急務

若い医療・介護従事者の確保、育成が行われないと、これからの皆様の医療、介護をまかなえなくなります。

地域では人口減少が徐々に進んではいますが、医療・行政・市民の皆様が一体となって地域の若い力がたを確保、できれば増やす努力をしていくことが必要です。できなければ、五～十年後の担い手不足で困るのは今いる私達になります。

■ちよこつと主張：みよしのあるべき姿、向かう道もどんどん変化しています。

若い方の三次への定着、Uターン、Iターン促進に三次市行政も対策を本格化させています。多くの若者を受け入れたい私たちは、彼らの生き方、多様性を尊重し、彼らの人生が豊かになるように援助しなくてはなりません。「帰ってきて、～をしてくれなくちゃ困る」

「～をしに帰って来い」というようなことは、若者は戻って来ないのです。くれぐれも、「それダメ、あれダメ、こうしろ」なんて言うてはいけません。若者が町をつくるようにならなくてはなりません。

■医師の人事異動（令和6年4月1日） 網かけは女性

科	前任者	異動後勤務先	卒年	新任者	異動前勤務先	卒年
耳鼻咽喉科				かとう ひでのり 加藤 秀範	広島大学病院	R3
消化器内科	大田垣 真	広島大学病院	H31	さくらい ゆういちろう 桜井 悠一郎	市立三次中央病院	R4
消化器内科	小田部 和果	広島大学病院	H31			
腎臓内科	野口 真路	JA吉田総合病院	H29	あいざわ まさほ 藍澤 政穂	公立世羅中央病院	H30
腎臓内科				やなもと まさき 柳本 正樹	広島赤十字・原爆病院	R4
呼吸器内科	山根 愛	公立世羅中央病院	H30	すみもと なつこ 住本 夏子	公立みつぎ総合病院	R2
糖尿病・代謝内分泌内科	児玉 竜一	広島赤十字・原爆病院	H29	ななお ゆうた 七尾 裕太	広島大学病院	R3
糖尿病・代謝内分泌内科	宮地 康平	広島大学病院	R2	おの のりや 岡野 義也	JA尾道総合病院	R4
リウマチ・膠原病科				さとう まゆ 佐藤 真由	広島大学病院	H31
泌尿器科				かじやまゆうだい 梶山 雄大	中国労災病院	R4
整形外科	出家 正佳	JA広島総合病院	H30	かど ゆうじ 角 悠司	公立世羅中央病院	H29
脳神経外科	前田 祐吾	松江赤十字病院	H29	みしま ひろと 三島 寛人	島根県立中央病院	R2
産婦人科	熊谷 正俊	呉医療センター・中国がんセンター	S63	せきね まさき 関根 仁樹	広島大学病院	H20
産婦人科	張本 姿	県立広島病院	H29	もりおか ひろひこ 森岡 裕彦	広島大学病院	H26
産婦人科	西本 祐美	広島大学病院	R2	まつしまあやこ 松島 彩子	広島大学病院	H31
皮膚科	川本 一陽	中国労災病院	R2	あまの あすか 天野 愛純香	JA広島総合病院	H24
皮膚科				なざり けん 名桐 研人	市立三次中央病院	R4
放射線診断科	岡田 康平	JA 広島総合病院	H29			
歯科口腔外科	中瀬 洋司	広島市立北部医療センター安佐市民病院	H25	さくらい しげる 櫻井 繁	広島赤十字・原爆病院	H22
研修医	樫本 晃樹	一宮西病院	R4	くすのきしんたろう 楠 真太郎	川崎医科大学	R6
研修医	國原 蒼士	庄原赤十字病院	R4	かつた よしき 勝田 圭貴	川崎医科大学	R6
研修医	桜井 悠一郎	当院	R4	しのはら ひろし 志野原 寛	川崎医科大学	R6
研修医	名桐 研人	当院	R4			
研修医	松山 侑希	広島赤十字・原爆病院	R4			
研修医	入江 健輔	大和中央病院	H31			
合計人数	20			20		

※上表は、2024年4月時点のものです。

この9～10月に異動がありますので別図に掲載します。

救急科は9月に引き継ぎのため2名体制です。脳神経外科が1名減員で10月よりは4名体制となります。小児科は1名(今岡医師)

が産休に入るための補充人事があり4名体制のままです。麻酔科は、育休明け復帰者が1名(塚本医師)いるので、現状の4名体制のままです。

医師の人事異動(令和6年9月1日)						
科	前任者	異動後勤務先	卒年	新任者	異動前勤務先	卒年
救急科				よしの ゆうや 芳野 由弥	広島大学病院	H29
医師の人事異動(令和6年10月1日)						
科	前任者	異動後勤務先	卒年	新任者	異動前勤務先	卒年
産婦人科	関根 仁樹	県立広島病院	H20	おおがめしんいち 大亀 真一	四国がんセンター	H12
産婦人科	藤田 真理子	広島赤十字・原爆病院	H30	のだ のぞみ 野田 望	広島大学病院	R2
脳神経外科	松田 勇輝	世羅中央病院	H28			
救急科	松本 丈雄	安芸太田病院	H28			
麻酔科	小早川 亮太	県立広島病院	H31			
耳鼻咽喉科	渡部 克哉	呉共済病院	R2	きむら ゆうと 木村 祐登	広島大学病院	R4
小児科				むらかみさとし 村上 智	広島大学病院	R2

(4月20日初校、5月10日第二校、8月22日第三校 永澤昌)

(追加情報)

10月下旬での校正作業となり、皮膚科と小児科の医師人事情報に追加がありますので皆様と共有させていただきます。

皮膚科は、野本佳葉子医長が産・育休より復帰し、3名体制となります。救急対応をしっかりと行えるようになり、より充実した診療体制となります。

小児科は、谷本綾子医師が産・育休より復帰し、5名体制となります。庄原赤十字病院の小児科1名体制へ応援をしっかりと行いつつ、24時間体制で備北の小児医療を支えて行くことが求められます。

宮島の鹿は飢えている



久行 敦士

宮島といえばたくさん鹿がいるイメージで、そのいかにも日本的な姿が宮島を上品に彩っている印象を持っている。てっきり鹿は地域に愛されているものだと思っていたが、近年は様子が違うようである。この件は娘が本年の夏休みに自由研究の宿題で調査していたのでその内容も紹介し、私も意見を添えてみたい。

元来、宮島の鹿は昭和25年に奈良から連れてこられたことにはじまり、観光資源として繁殖させてきたとのことである。宮島の土壌は鹿のエサとなる植物が生えにくいいため、旧宮島町がエサを与えていた。しかし、増えすぎてしまったとのことである。2008年に突如「鹿は野生動物であるため、行政による給餌は禁止」という政令が発せられたとのことである。

そもそも人間が連れてきたものを、増えたからと言って管理を投げ出すとは甚だしく無責任であると思わざるを得ない。

多数の愛護団体、個人の有志が反対の声を上げたが政策は断行された。その後、衰弱死していく鹿を見かねた本土の個人ボランティアが給餌ボランティアを行っているとのことである。その際鹿の口減らしを求める人たち

からは様々な妨害をうけてきたとのことである。

このボランティアは週1回であり、他の日はしかたがないので枯葉や草、石やブルーシート、金たわしなど食べ物ではないものまで口にに入れて飢えをしのいでいるとのことである。また、食べ物を求め市街地をさまよう鹿は住民に蹴られたり棒でたたかれたりすることもあるとのことである。

愛護団体など行政への批判を行なっているグループの提案は、①鹿の餌となる植物を植えていく ②植物が育つまでの適切な給餌の再開 ③ホルモン注射による繁殖制限 である。

至極適切な対応を提案しているのではと考える。

加えて私としては、繁殖制限がままならない場合に動物園などに寄贈することはできないかと考える。

増えすぎる→餌を止める という短絡的な判断が非常に残念である。

593年に創建(伝)された厳島神社の歴史、世界遺産という評価、それらに対する責任を

負っているという自覚はあるのだろうか。
宮島自体、古来から神として崇拜されてきた
とのことであるのに生息する動物を粗末にする
とは恐れ多い。

これは私の勝手な予測になるが、複数の
チームで多角的な話し合いをした形跡が感じ
られないので、ある考えのかたよった担当者
の決断なのではと疑っている。

鹿のことは結果であり真摯に対応していかな
ねばならないが、原因である欠落した意思決
定システムが存在するならば、今後に備えて
改良されることを切に願う次第である。



フアックス伝言板

禁煙推進・ 受動喫煙防止 活動報告

2024.6.～2024.9.

あんどう眼科

禁煙推進委員

安藤

仁



ここはどこ、このシルエットは何？
ビックリしますが、鵜舟乗船場の船溜まりの近くの丘です。親が二頭と、子が一頭現れました。



前回お知らせしまして、会員の皆様にお配りしました世界禁煙デーポスターのインパクトは、いかがでしたでしょうか？

びっくり！WBC日本の栗山英樹本監督が右手を挙げて叫んでくれています。

禁煙週間を禁煙習慣に。健ジャパン！

(sukoyaka japan)

カープと同じ赤いポスターカラー。迫力満点で若い人達から年配の方々までアピールできましたでしょうか！長くそのままにしておいてください。時々コンビニなどの店頭や駐車場で気まずそうに吸っている人を見かけますから。

今でも成人男性は24.8%が喫煙をし、女性も6.2%が吸うそうです。それでも2019年に比べれば男性2.3%、女性1.4%減少しています。男性喫煙者が10%弱減、女性は20%以上減で女性の減少がうれしいですね。喫煙は悪習慣といい続けている成果です。言わなければ減らないでしょう。雑誌の見開きページにタバコ会社はカラーの広告を平気で載せています。載せる方が悪いのですが、広告収入にしている雑誌社には責任を感じてほしい。日本だけではないでしょうか！恥ずかしい。

広島駅新幹線ホームからは喫煙場所は撤去されたと思っておりました。新幹線 のぞみ号からも喫煙ルームが閉鎖されてタバコの臭いから解放されたと思っていました。どこの駅もそうなのかと思いきや、岡山駅の13号車付近で



立派な喫煙所を見かけました。丸見えです。

京都駅でも1か所、品川駅でも2か所立派な喫煙室を見かけておりました。ネットで「新幹線駅喫煙所」などで検索すると、まだまだ吸えるところがあるのでビックリ。コンコースや改札口近くも困りますが、ホームにもあるのが大きい駅では当たり前ようです。広島駅は無くなったと思っていました。16号車方面を確認しましょう。

利用者が増えている広島駅です。広島電鉄が駅の2階に乗り入れてきて広島駅は便利になります。駅のホーム、コンコースや駅の近くの商業施設などに新たな喫煙所を作られない様に注意しましょう。広島市は公設喫煙所は作らないと松井市長さんは言明されています。しかし、新サッカースタジアムに作られてしまったタバコを吸うための休憩室を作られては困ります。喫煙率を下げる確実な方法は新規喫煙者を出さないことが一番ですね。タバコは、ダサくてお金の無駄、時間の無駄、健康の無駄。

喫煙所と言えば、ズムスタ。我らのカープ球場は、どうなっているのでしょうか？目撃してしまいました。9月12日(木)中国道の千代田から先でものすごい雷雨に会いながらも三次地区医師会のカープ応援バスに乗って、いざ勝利を目指せとズムスタへ。早速バスを降りてレフト側のすごいびっくりテラス1階に陣取りました。

床田なら勝てると思いましたが、相手は戸郷。目の前に戸郷がいて遠投でホームへ投げたらストライクでした。調子を上げたら打てなそう



か？残念ですが巨人から点の入らない試合展開

0対5で負けてしまいました。

バーベキューのお肉を焼いている右手に変わったハウスがありました。中が真っ白で見にくいのですが、紙巻きタバコを苦しうに吸っている感じ。じろじろ見てもいられません。金属製の様なものを噛んでいる人も。何とも表示はありませんが、あれはニコチン吸入所です。立派なものがあるのでビックリ。未成年者からも丸見えで良くありません。何とかしましょう。



私事で恐縮です。三次町で36年間眼科診療を続けさせていただいてきました。この度、決断をさせて頂きました。9月30日を持ちまして眼科診療を終了させていただくことになりました。歴代会長を初め諸先生、医療関係者の皆様に大変お世話になりました事に感謝申し上げます。

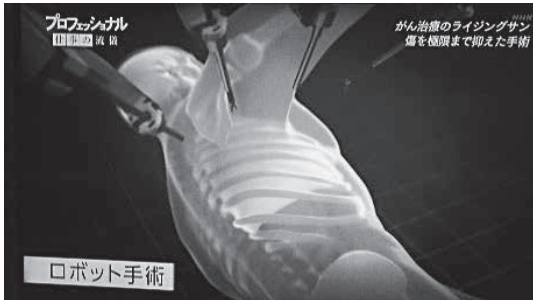
これからの展望ははっきりしておりませんが、自宅会員として地区医師会員を続けさせていただきたいと思ひます。引き続きよろしくお願ひいたします。巴杏編集委員も続けます。



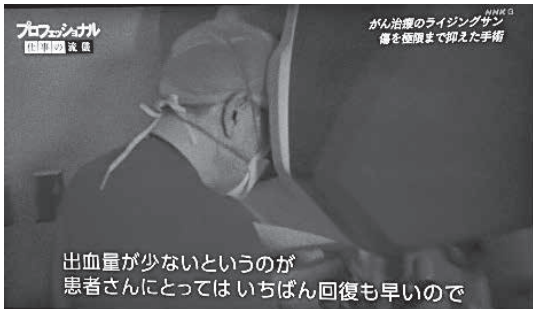
カナダ第一の商業都市 トロントに

その大学病院はあった。肺がん治療のランキングで世界第3位だそうです。

NHK 8月21日(火)22時から放送された「プロフェッショナル」より。



何をしているのでしょうか？
 ダヴィンチ2？ 手術用ロボット装置です。
 4本の器具を胸腔のなかにセットすると
 先生は操縦席と呼ばれる椅子に座り
 ロボットを繊細にあやつり がんを探し出血を
 最小にしなが、がんを摘出する。



日本人医師 呼吸器外科医 安福和弘 先生。
 手術の腕が素晴らしい外科医です、人柄も素晴らしい。三次中央病院にもこのダヴィンチ2のロボット手術機が入るのでしょか！大都市との地域間格差を減らしましょう。多くの施設に入っている機械やロボット手術機は、術者が多くいて若い術者を育てるのに好都合のはず。円安に歯止めがかかれば輸入価格も下がりますか。良いものは少々高くてもお買い得ですね。須澤先生も番組をご覧になっていたそうです。最先端の凄い手術だね、出血がほとんど出なくて直ぐ退院できるのは素晴らしいと。



8月22日(水) 中国新聞21面

甘日市総合病院の呼吸器外科で肺癌を多く手術されていた渡先生が、甘日市医師会で活動されています。コンビニの出入り口近くに設置されている灰皿の撤去に取り組みられて2年間で3店舗が応じて灰皿なしにされた。市内のコンビニ40店のうち灰皿を置いていた26店舗に要望書を提出し個別に依頼をされたそうです。一割のお店が応じたことに。県医師会の禁煙推進委員会からコンビニさんの本部に要請をしても成果は上がっていませんでした。個別に地道にお願いすることが大切。大多数がタバコを吸わないお客さんです。お店が、煙たがられず良い事ではないでしょうか！



朝 7時過ぎに咲いていました。日下美人？



人類の歴史にはさまざまな挑戦者がいた。どんなに失敗しても、彼らの熱意や想いが何度も立ち上らせ、その結果、常識を打ち破り新しい世界を見せてくれた。医薬はどうだ。空を自由に飛び、宇宙にまで届く時代に、私たちの体の中には未解決の課題が山積している。私たちにはやるべきことがある。助けなければならない人がいる。だから、挑む。住友ファーマは、精神神経領域およびがん領域を重点疾患領域とし、これまで紡ぎあげてきた当社の経験と知識を最大限生かせるこれらの領域において、引き続き、医薬品、再生・細胞医薬、非医薬等の研究開発に挑み続けます。

Sumitomo Pharma
Innovation today, healthier tomorrows



詳しくはこちら

KAITEKI Value for Tomorrow
三菱ケミカルホールディングスグループ



田辺三菱製薬のシンボルマークは手のひらをモチーフにしています。
www.mt-pharma.co.jp

 **田辺三菱製薬**

この手で、未来を。

感じる 描く 動かす
創る 育てる 届ける
そして 抱きしめる

健康で長生きできる未来を
病とその不安を乗り越える未来を
理想のその先にある未来を

一人ひとりの手で
みんなの手で
希望を信じるこの手で

PHC

Healthcare with Precision

medicom-HRf



Medicom-HRfには医療機器に該当する機能は含まれておりません。

PHCメディコム株式会社

広島営業所 千733-0002 広島県広島市西区楠木町2-8-7
TEL:082-239-3366 FAX:082-238-2279

ハイブリッド型電子カルテシステム

※関連特許出願中

◆ 電子カルテに実績あるメディコムのクラウドサービス！

medicomCloud

メディコムは、
院内運用とクラウドの
ハイブリッド運用サービスを提供！

◆ オンライン資格確認もメディコムにお任せ下さい！

パナソニック製カードリーダーで
メディコムだけのオールインワン
方式が可能になります。



▶ ホームページもご覧ください。

<https://www.phcd.com/jp/phcmn/>
右記QRコードからもアクセスできます。



会 員 紹 介



市立三次中央病院 皮膚科

芦澤 慎一

2024年1月より市立三次中央病院皮膚科で勤務させていただいております芦澤慎一です。

出身大学は島根大学医学部で、卒業後は島根県立中央病院で初期研修をし、2016年に広島大学皮膚科に入局しました。入局後はこれまでに広島大学病院、東広島医療センター、庄原赤十字病院で勤務してきました。2022年4月より庄原赤十字病院での勤務を経て、市立三次中央病院で勤務しておりますので、備北地区での生活は3年目になります。冬の寒さはまだ慣れないですが、三次の長閑な環境は私に合っていると感じております。至らぬ点もあるかと思いますが、三次の医療に少しでも貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。



市立三次中央病院 麻酔科

原 木 俊 明

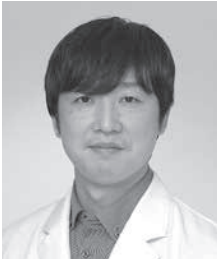
令和6年2月1日付けで市立三次中央病院麻酔科の主任医長として着任しました原木俊明と申します。経歴ですが、平成13年に広島大学を卒業し広島大学麻酔蘇生学教室に入局し、安佐市民病院、土谷総合病院、広島大学病院、広島総合病院で研鑽を積んで参りました。これまではそれぞれの施設で上司の指導の下、業務を行って参りましたが、この度初めて麻酔科部門の責任者として勤務することになりました。手探りの状態ですが、各科の先生方やスタッフの協力もあり、充実した日々を過ごすことができています。

話は変わりますが、生まれも育ちも広島市近郊で、同じ広島県内でも瀬戸内の気候とは異なる三次の内陸の気候にしばしば驚かされています。着任後は幸いにも本格的な積雪がありませんでしたが、今シーズンの冬をどのように過ごしていこうか心配しでもあり楽しみでもあります。

最後になりましたが、これまで経験し学んだことを活かしながら、微力ではございますが地域の医療に貢献し、また、当科の若手医師を育成していければと考えています。

そして、患者さんが安心して手術に臨めるように、安全な周術期管理に努めて参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

会 員 紹 介



市立三次中央病院 腎臓内科

藍澤 政穂

平素より大変お世話になっております。

令和6年4月より市立三次中央病院へ参りました、藍澤政穂と申します。

以前令和2年4月から令和4年3月までにも三次中央病院の腎臓内科にてお世話になっておりましたが、その後庄原赤十字病院、公立世羅中央病院で1年ずつ勤務させていただき、縁あって再度戻ってくることとなりました。他の地域中核病院での勤務においては腎臓内科兼一般内科医（時には外科医！）として勤務させていただき、腎疾患はもちろんのことですが腎臓病以外の疾患や手技も数多く経験させていただきました。

どうしても慢性腎臓病、特に末期腎不全へ至ってしまった患者様は、腎臓病以外の疾患も有する Multimorbidity の状態になっておられることが多いと感じています。そんな中、当院を離れていた2年間で腎臓病以外の他領域の疾患を多数経験させていただいたことで、より一層患者様1人1人に寄り添った医療が提供できるのではと考えております。今後も丁寧な診療、コミュニケーションを心掛け、患者様や諸先生方に信頼いただき、三次地区の医療を盛り上げていけるような医師になれるように尽力してまいります。

齢30を超え、カップ麺の大盛りを食べると胃もたれを起こしたり、筋肉痛が翌々日に出たりと身体的には年齢を感じるが増えておりますが、医師としてはまだまだ未熟な若輩者と自覚しております。いろいろとご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、引き続き温かいご指導ご鞭撻のほど賜りますようよろしくお願い申し上げます。

会 員 紹 介



市立三次中央病院 腎臓内科

柳本 正樹

令和6年4月より市立三次中央病院腎臓内科に赴任しました柳本正樹と申します。令和4年に広島大学を卒業後、広島大学病院、広島赤十字・原爆病院で初期研修を終え、今年度より広島大学腎臓内科に入局いたしました。医師3年目でこちらへ赴任して現在5カ月経ち、初期研修の時期と打って変わって多くの責任を求められるようになり、日々奮闘して過ごしております。4月に赴任した際は医師としても腎臓内科医としても右も左もわからないような状況でしたが、そのような中でも少しずつですが成長を感じながら勤務できていると感じております。そのように感じられるのは困った時に助けて下さる多くの先生方や医療スタッフの方々のおかげです。日々お忙しい中でも御指導いただき、自分の未熟さを感じることはありますが、充実した日々を過ごしていると感じています。

出身は広島市で、県北での生活は初めてです。家族とともにこちらへ引っ越してきて、まだ慣れていない部分も多いですが、自然豊かな県北での生活を楽しめていけたらと思っています。日々の通勤路や帰路では鹿との遭遇には驚いておりますが、のどかな風景を見て日々気持ちが癒されております。冬の積雪をまだ経験しておらず不安な部分はありますが、何とか乗り越えていけたらと思います。

未熟で至らない点が多々あるかと思いますが、県北の医療に少しでも貢献できるよう努めていきます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



市立三次中央病院 耳鼻咽喉科

加藤 秀範

令和6年4月より市立三次中央病院に赴任いたしました加藤秀範と申します。広島で育ち、令和3年に広島大学を卒業後、東広島医療センターで初期研修を行い、令和5年に広島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局しました。広島大学病院で1年間勤務したのちこの春より市立三次中央病院への赴任となりました。

三次は初めての地ですが、まだ冬を知らないということもあるのでしょうか、とても過ごしやすく感じております。また市立三次中央病院は他科の先生方との垣根が低く、スタッフの皆様も含めてとても温かい病院だなと感じながら日々診療にあたっております。

耳鼻咽喉科医としてまだまだ未熟ですので皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、精進して参ります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

会 員 紹 介



市立三次中央病院 糖尿病・代謝内分泌内
七尾 裕太

2024年4月より市立三次中央病院 糖尿病・代謝内分泌内科に赴任いたしました七尾裕太と申します。

私は学生時代から内分泌疾患に興味を持ち、研究室実習や臨床実習で内分泌内科の実習を積んできました。初期研修は広島大学病院と呉共済病院で行い、昨年は広島大学病院の内分泌・糖尿病内科で研鑽を積んでまいりました。

この度、ふるさと卒医師として三次の地で勤務することとなり、地域医療に貢献できることを大変嬉しく思っています。この地域は私にとって初めての土地ですが、地域の方々と共に成長し、貢献できるよう全力で取り組んで参ります。

内分泌疾患には、下垂体疾患や副腎疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患などがあり、これらは比較的希少な疾患が多く、丁寧な診断や治療が求められます。私は、こうした希少疾患に携わることを志した医師として、一人でも多くの内分泌疾患でお困りの患者さんの症状を緩和し、生活の質を向上させることを目指しています。日々の診療を通じて理解を深め、常に最新の情報をアップデートし、最善の内分泌医療を提供できるよう全力で取り組んで参ります。

また、糖尿病は現在「国民病」とも称されるほどメジャーとなっております。治療と合併症の予防が重要です。血糖コントロールだけでなく、食事や運動など生活習慣の改善が必要です。

個々の生活習慣や健康状態に心を配り、患者さん一人一人に寄り添ったベストの治療を提供できるよう尽力いたします。

医師として4年目で、まだまだ至らぬ点が多々ございますが、熱心に学び続け、成長していきたいと思っております。医師会の先生方におかれましては、内分泌疾患を中心に糖尿病などでお困りの症例がございましたら是非ともご紹介いただければ幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

会 員 紹 介



市立三次中央病院 リウマチ・膠原病科常勤医

佐藤 真由

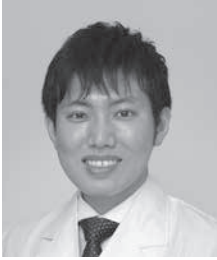
はじめまして。医師6年目になる佐藤真由と申します。2024年度より三次中央病院リウマチ・膠原病科常勤医としてまいりました。私自身は生まれも育ちも広島市ですが、庄原市西城町に母方の本家や曾祖母の家があり、毎年帰るたびに三次地区も訪れていたため、今年からこちらに住むようになり懐かしさを感じております。

広島大学医学部のふるさと枠で入学し、学生時代より地域へ貢献するとはどうしたらよいか自分なりに考えているなかで、広島県北部でのリウマチ・膠原病診療はニーズがとても高いもののまだ十分満たされていないと知りました。医学部6年生の学生実習でリウマチ・膠原病科の外来を見学した際、三次地区・庄原地区から広島大学病院まで通院されている患者さんがとても多くいらっしやっただのを記憶しています。その時から、総合的に内科一般を診つつ、関節痛を訴える方や膠原病が疑われる方が広島市内まで出ずとも診療を受けられるような体制の一助になりたいと思うようになりました。

その年の4月より三次中央病院リウマチ・膠原病科の非常勤派遣が始まり、ついに今年常勤化、そして私がそれに関わることができるとは感無量です。夢だけ大きく掲げるのではなく少しずつ歩を進め、地域の開業医の先生方と連携し、地道に、実直に、診療に努めてまいりたい所存です。

医師6年目でまだまだ未熟な部分が多くご迷惑をおかけすることも多々あるとは思いますが、ご指導ご鞭撻いただけますと幸いです。これからどうぞ宜しくお願い申し上げます。

会 員 紹 介



市立三次中央病院 泌尿器科

梶山 雄大

2024年4月より市立三次中央病院泌尿器科に赴任した梶山雄大と申します。広島市出身でAICJ高等学校を卒業後、山口大学医学部医学科に進学しました。卒業後は中国労災病院で初期臨床研修を行い、広島大学病院泌尿器科に入局しました。三次中央病院は泌尿器科として専門分野の研鑽をさせていただき最初の病院となりました。三次に住むことは初めてですが、自然豊かで落ち着いた環境、非常に心温かい医療スタッフの方々や患者さん、熱心に指導して下さる上級医の方々、軽症から重症まで非常に幅広い症例など研鑽を積むには非常に良い環境が揃っており、日々自分の経験値が増えていっているなど感じております。泌尿器科の仕事は、内科的に排尿障害や尿路結石、尿路感染症、悪性腫瘍などの診断や治療を行うこと、外科的に前立腺生検や経尿道的手術や腹腔鏡手術といった処置などがあります。日々新しい治療法や薬剤の情報が更新されているので、常に最新の情報を取り入れ患者さんに最善の医療を提供できるよう目指しております。今一番心がけていることは患者さんとしっかり対話を行い、何が一番困っているのか正確に把握することです。

これからも患者さんの健康維持に最善を尽くし、地域医療の発展に貢献してまいります。患者さんのニーズに合わせ、最適な治療法を提供するため、チーム医療を推進し、精度の高い診断と治療を行うよう心がけています。まだまだ私自身至らぬことも多いと思いますが、これからも地域医療の発展に大きく貢献できるように頑張りたいと思いますので、これからもご指導ご鞭撻よろしく申し上げます。

会 員 紹 介



市立三次中央病院 整形外科

角 悠司

令和6年4月より、市立三次中央病院の整形外科へ赴任しました角悠司と申します。

平成29年に広島大学を卒業し、呉医療センター、広島大学病院で研修した後、3年前まで市立三次中央病院の整形外科で勤務しておりました。

以後、広島大学病院や世羅中央病院の勤務を経て、再度当院に赴任いたしました。

私は、少しでも患者さんの症状に向き合い、疼痛や症状に直接治療介入でき、寄り添うことができるようになりたいと整形外科医になることを決意致しました。

腰痛や膝関節痛といった症状は多くの方が悩み、抱えており、それぞれの患者さんの生活背景も異なり望んでいる治療も様々です。外来治療や手術治療、それぞれ1人1人にあった治療を勧め、症状に向きあい、治療を選択出来るようにしたいと思います。

私自身地域医療に興味があり、整形外科領域からも、総合的に地域医療に貢献したいと考えております。特に、日常生活で感じる疼痛や症状は内科疾患等にも密接に関係していることもあり、他科や医療スタッフとも連携しながらチーム医療に取り組みたいと思います。地域の関連病院とも連携しながら、地域の皆様の健康を守りたいと思います。

また外傷治療に関しても、手術治療から外来治療まで、全身幅広く診ることのできるように、日々研鑽してまいりたいと思います。備北地区の医療に貢献できるよう精一杯頑張りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



市立三次中央病院 脳神経外科

三島 寛人

今年度、市立三次中央病院・脳神経外科に赴任いたしました三島寛人と申します。高校までは広島県広島市で暮らし出身大学は香川大学。そのため三次市での生活は初心者です。着任後数カ月が経過しますが、まだまだ日々の生活にも戸惑いを感じています。最近、夏が過ぎこれから寒くなっていく中で、雪への備えについて勉強しているところです。

脳神経外科専攻医として、これまでは広島市・出雲市などで、周囲の医療施設・人口・病床など、三次とは全く異なる環境で学んでまいりました。これまでの経験を活かしつつも、医療資源も患者層も異なるこの地域ならではの医療を学んでいきたいと思っております。

脳神経外科領域でも特に、脳卒中医療に関しては、医師会会員の皆様との連携がとても大切であると考えております。診療におきましては様々な面で皆様にご迷惑をおかけすることもあると存じます。失礼を働きましたらご指摘ください。またご用命いただきましたら可能な限り対処いたします。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

会 員 紹 介



市立三次中央病院 産婦人科

松島 彩子

2024年4月から市立三次中央病院産婦人科に赴任しました松島彩子と申します。福山市出身で、広島大学を卒業し現在卒後6年目です。県立広島病院、JA尾道総合病院、広島大学病院で勤務し現在に至ります。今年7月に産婦人科専門医試験を受験し、これを書いている9月はどきどきしながら結果を待っているところです。趣味はオーボエという楽器を吹くこととマラソンです。今年の秋は大学オーケストラのOBで集まって行う演奏会に出る予定とフルマラソンの予定があり、芸術の秋とスポーツの秋の両立を目指して頑張っています。

産科、婦人科ともに診療させていただいていますが、現在一番多く行っているのは産科の業務です。全国的に分娩数は減少しており備北地区も例外ではないですが、幸い赴任してからたくさんの方の分娩に関わらせていただいています。患者さんとご家族にとって幸せな妊娠出産になるよう、安全な周産期管理を目指して精進してまいります。今後もしばらくご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



市立三次中央病院 皮膚科

天野 愛純香

この4月より市立三次中央病院に赴任しました皮膚科の天野 愛純香と申します。

三次にはゆかりが無いのですが幼少時には1年間ですが庄原に住んでいたため、懐かしい記憶もあり、比較的すぐになじめたように思います。

また県北には美味しい飲食店が多く、食べ歩きが趣味の私は楽しみが増えています。

私はこれまで広島大学病院、呉医療センター、東広島医療センター、広島総合病院等で勤務し、特に皮膚外科、創傷治癒の分野の患者様を多く担当しておりました。治療の必要な患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介頂ければ幸いです。

今まで勤務した病院と比べて近隣に総合病院がないこの地域では、この病院の役割と重要性をより一層実感しています。

県北の医療に貢献できるよう、専門知識と経験を活かし、全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。

会 員 紹 介



市立三次中央病院 研修医

楠 真太郎

令和6年4月より市立三次中央病院に初期研修医として赴任しました、楠真太郎と申します。出身は広島市で中高は修道、大学は川崎医科大学です。部活動は、中高はバスケット部、大学ではラグビーをしていました。6年間岡山の倉敷で過ごしていましたが、この度三次で2年間初期研修をすることとなりました。三次は美味しい飲食店も多く、大変過ごしやすい場所だと感じています。

現在のところ将来進む科は決まっていない状況ですが、1ヶ月単位でいろいろな診療科を回ったり、月に5回ほど当直に入らせていただいたりして、どのような医師になるか模索している毎日です。自分是要領があまりよくないのですが、上級医の先生方には丁寧に優しく教えていただいています。

研修医として赴任してから色々経験を積ませていただいています。分からないことやうまくいかない事があり、まだまだ医療の現場で戦力になれていないと感じる事が多いです。ただ半年間過ごしてみて、目の前の患者さんをしっかり自分でアセスメントすることが大切だと感じたので、上級医の先生に甘える事なくしっかり考えて根拠を持って積極的に診療していこうと思っております。日々の研修に加えて自己研鑽を積んで、一人前の医師になれるように頑張っていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いします。



市立三次中央病院 研修医

勝田 圭貴

令和6年4月より市立三次中央病院に勤務させて頂いております勝田圭貴（かつたよしき）です。出身は広島県広島市です。修道高校を卒業した後、川崎医科大学に進学しました。大学ではラグビー部に所属していました。大学の卒業を機に広島に戻ってまいりました。

三次での生活も半年が経とうとしており、生活・仕事にも少しずつ慣れてきたところです。三次の冬の街については、今から戦々恐々としておりますが、今のところ想像していた以上に過ごしやすい街だと感じています。これからもおいしいお店など少しずつ開拓し、楽しみを増やせたらと思っています。また、自然豊かな三次で趣味のゴルフができればとは思っています。

最後になりましたが、これからいろいろご迷惑をかけることもあるかと思いますが、三次地域の医療に貢献できるよう努めていきたいと思っております。1日でも早く皆様の力になれるように精進いたします。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いします。

会 員 紹 介



市立三次中央病院 研修医

志野原 寛

令和6年4月より市立三次中央病院に赴任しました志野原寛と申します。令和6年に川崎医科大学卒業後、市立三次中央病院に研修医として働かせて頂くことになりました。大学病院とは全く異なる市中病院であり、三次は初めての地でもあることから不安もありましたが、上級医の先生、コメディカル、スタッフに温かく支えられなんとか半年経過しようとしているところです。残り1年半で研修期間が終わるという危機感を忘れず、今後はより一層精進していきたいと思えます。

ご迷惑をおかけすることが今後も多々あると思いますが、三次の医療に貢献できるよう努めていきますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



三次地区医療センター 消化器内科

福原 基允

2024年4月より、三次地区医療センターの消化器内科に赴任いたしました福原基允（ふくはらもとみつ）と申します。

私は三次市で生まれ育ち、広島学院中学校・高等学校を卒業後、東海大学医学部に進学いたしました。中学から大学までの12年間、柔道部に所属していました。平成26年に東海大学を卒業し、JA尾道総合病院で2年間の初期臨床研修を修了しました。その後、広島大学消化器内科に入局し、引き続きJA尾道総合病院で後期研修を行いました。さらに、広島大学病院での勤務を経て、現在に至ります。

私は消化器領域の中でも特に消化管領域を専門としており、早期診断・早期治療の重要性を常に念頭に置きながら診療を行ってまいりました。また、内視鏡検査においては、少しでも苦痛なく安心して検査を受けられるよう心がけております。

この度、故郷である三次に戻り、地域医療に従事できることを大変嬉しく思っております。専門領域に限らず、一般内科医としてもこれまでの経験や知識を生かし、少しでも備北地域の医療に貢献できるよう精進してまいります。まだまだ至らぬ点も多く、先生方にはご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

会 員 異 動

(入 会)	異動元	異動日	備考
子鹿医療療育センター	五 藤 進一朗 (榎坪病院)	令和6年 8 月1日)	
市立三次中央病院	大 亀 真 一 (四国がんセンター)	令和6年10月1日)	
市立三次中央病院	野 田 望 (広島大学病院)	令和6年10月1日)	
市立三次中央病院	木 村 祐 登 (広島大学病院)	令和6年10月1日)	
市立三次中央病院	村 上 智 (広島大学病院)	令和6年10月1日)	

(退 会)	異動先	異動日	備考
市立三次中央病院	関 根 仁 樹 (県立広島病院)	令和6年9月30日)	
市立三次中央病院	藤 田 真理子 (広島赤十字・原爆病院)	令和6年9月30日)	
市立三次中央病院	松 田 勇 輝 (公立世羅中央病院)	令和6年9月30日)	
市立三次中央病院	松 本 丈 雄 (安芸太田病院)	令和6年9月30日)	
市立三次中央病院	小早川 亮太 (県立広島病院)	令和6年9月30日)	
市立三次中央病院	渡 部 克 哉 (呉共済病院)	令和6年9月30日)	

(異 動)	異動先	異動日	備考
あんどう眼科医院	安 藤 仁 (自宅会員)	令和6年9月30日)	



医師会事業所現況報告

医療センター入院実績（病床数150床）							(R 6. 4～R 6. 7)	
項目	4月	5月	6月	7月	合計	平均	備考	
新入院患者	55	76	59	79	269	67.3		
内（救急入院）	3	5	6	5	19	4.8		
退院患者	64	66	62	77	269	67.3		
月末在院患者	71	81	78	80	310	77.5		
在院患者延数	2,322	2,304	2,358	2,463	9,447	2,361.8		
平均入院患者数	77.4	74.3	78.6	79.5	310	77.5		
協同指導回数	0	0	0	0	0	0.0		
実働病床利用率	51.6	75.1	79.4	80.3	-	71.6		
検査外来患者数	746	799	788	848	3,181	795.3		
その他（ドック）	330	326	380	408	262	361.0		
三次市休日夜間急患センター外来実績							(R 6. 4～R 6. 7)	
市 町	4月	5月	6月	7月	合計	平均	備考	
旧 三 次 市	65	85	57	109	316	79.0		
吉 舎 町	7	8	1	10	26	6.5		
三 和 町	1	3	3	7	14	3.5		
三 良 坂 町	8	4	2	4	18	4.5		
君 田 町	4	1	0	4	9	2.3		
布 野 町	3	2	2	4	11	2.8		
作 木 町	4	1	0	5	10	2.5		
甲 奴 町	1	5	1	1	8	2.0		
そ の 他	11	20	7	25	63	15.8		
合 計	104	129	73	169	475	118.8		

医師会日誌

令和6年4月1日～令和6年7月31日

- | | | | |
|------|---|------|---|
| 4.1 | • 三次地区医師会 入社式
(医師会多目的室) | 5.21 | • 第12回三次地区医師会定時総会について
(医師会多目的室) |
| 4.2 | • 広島県医師会理事会
(広島県医師会館/WEB) | 5.22 | • 市郡地区医師会会長会議 (WEB) |
| 4.10 | • 執行部会 (医師会多目的室) | 5.23 | • 執行部会 (医師会多目的室) |
| 4.11 | • 広島県備北保健医療福祉推進協議会
(いきいきネット)
(医師会多目的室) | 5.27 | • 備北地対協理事会
(三次グランドホテル) |
| 4.15 | ⑩学術講演会
演題「なぜ今、COPDに注目するのか？」
講師 医療法人社団HARG広島アレルギー呼吸器クリニック
総括院長 保澤 総一郎 先生
(WEB) | 5.27 | • 広島医学会総会 第1回準備委員会
(広島県医師会館/WEB) |
| 4.18 | ⑩学術講演会 備北地区高血圧講演会
演題「心不全予防を目指した高血圧治療—BNPの活用と
ARNIへの期待—」
講師 信州大学医学部
循環器内科学教室
教授 桑原 宏一郎 先生
(市立三次中央病院/WEB) | 6.1 | • 三次市政20周年記念式典
(きりり) |
| 4.24 | • 執行部会 (医師会多目的室) | 6.4 | • 広島県医師会理事会
(広島県医師会館/WEB) |
| 4.25 | • 新規個別指導 (広島合同庁舎) | 6.5 | • 三次市防災会議
(べべらホール) |
| 5.11 | • 広島県医師会 臨時代議員会
(広島県医師会館) | 6.6 | • 第12回定時総会
(三次グランドホテル) |
| 5.14 | • 広島県医師会 理事会
(広島県医師会館/WEB) | 6.6 | ⑩学術講演会 備北心不全セミナー
演題「心不全とフレイルの関係性」
講師 三次地区医療センター
循環器科 松井 希乃 先生
(みよしきんさいセンター/WEB) |
| | • 急患センターWG
(医師会多目的室) | 6.9 | • 広島県医師会 代議員会
(広島県医師会館) |
| | • 運営委員会 (医師会多目的室) | 6.12 | • 執行部会 (医師会多目的室) |
| 5.15 | • 監事会 (医師会多目的室) | 6.13 | • 備北保健医療福祉推進協議会
(いきいきネット)
(医師会多目的室) |
| | • 理事会 | 6.20 | ⑩学術講演会
演題「アルツハイマー病による軽度
認知障害 (MCI) の診断と治療、
連携について」
講師 三次神経内科クリニック花の里
院長 伊藤 聖 先生
(三次市福祉保健センター/WEB) |
| | • 三次市からの報告事項 | 6.26 | • 執行部会 (医師会多目的室) |
| | • 令和5年度三次地区医師会決算報告 | | |

- 6.27 ④学術講演会 第34回広島県北部
腎不全研究会
演題「CKD-MBDマネジメント
～テナパノル塩酸塩錠への期待～」
講師 広島大学病院腎臓病地域医療
学寄附講座 教授
医療法人一陽会 原田病院
透析室室長 土井 俊樹 先生
(三次グランドホテル/WEB)
- 7.2 • 広島県医師会理事会
(広島県医師会館/WEB)
- 7.8 • 備北メディカルネットワーク
長浜市による視察
(医師会多目的室)
- 7.10 • 執行部会 (医師会多目的室)
- 7.11 • 備北地区漢方セミナー
(市立三次中央病院/WEB)
- 7.17 • 理事会
・三次市からの報告事項
・令和6年度の分掌について
・その他報告事項
・カーブ観戦ツアーについて
・お盆の死体検案体制の協力について
・各理事からの報告
(医師会多目的室)
- 7.25 • 広島県医師国保組合 組合会
(リーガロイヤルホテル広島)
- 7.30 • 市郡地区医師会長会議
(広島県医師会館/WEB)
- 7.31 • 急患センターWG
(医師会多目的室)
・運営委員会 (医師会多目的室)

原稿募集

下記要領により公募しますので、ご
投稿をお待ちします。原稿締切り日は
ありません。

記

「論 壇」

2,000字程度。題目自由。紙上匿名
不可。

「私の主張」「私の趣味」

2,000字程度。紙上匿名不可。但し原
稿に氏名の明記のない場合は断わりま
す。

「文芸・芸術作品」

随筆、短歌、俳句、絵画、書、写真など。
400字程度(本号1頁掲載範囲)

「採 否」

制限字数過多あるいは執行部個人や
会員個人を誹謗したり、内容が本紙に
そぐわない場合、巴杏編集委員会で審
査の上、返却することもあります。

※ファックス伝言板にも奮って投稿
願います。

編 集 後 記

巻頭言で鳴戸兼嗣先生が言いわれていました。日本は亜熱帯になりました。南西諸島の亜熱帯の西表島を八月に訪れ水牛を見てこられた加美川先生、お写真ありがとうございます。多くの皆様からのご投稿をいただいて181号をお届けできます、有難うございました。

会員紹介欄に16名の先生から自己紹介をしていただきました。再任の先生、ベテランの先生から研修医の先生まで、県北医療の拠点であり、**広島県地域医療の要・三次**に来ていただき有難うございます。患者さんと、医療スタッフと思いやりを持った**対話**。市民の皆さんと楽しくゆったりとした**対話**。言いつばなしにならない様に私も**対話**に気を付けましょう。

33ページの芦澤先生の紹介文で 三次の長閑な環境 と書かれていました。想像力で読みましたが、**のどか** でした。一昨年は庄原日赤にいたとのこと。一昨年の12月、去年の1月は40年ぶりの大雪だったのですが・・・、経験済みですね。今シーズンの冬の始まりは、雪が多いかも知れませんが、日本海の海水温の高さで決まります。

9月も、8月からの真夏日が続き、残暑が酷暑となり、**残酷猛暑**となり、9月20日まで最高気温が35度前後の日が続き、どこまで続くのかと諦めませんでしたか？暑さ寒さも彼岸までと言われますが、22日に雨が降るのを合図にするかの様に つらい真夏日は解消。

10月21日は最低気温が8度と寒くなりました。遅れていたツバメの大集合が見られ南を目指します。10日遅れに咲いたキンモクセイも雨に打たれて散り、変わってギンモクセイが咲き出しました。気温の変化が激しくなってきたと思います。体調管理をお願いします。

中央病院の近況報告を病院長の永澤 昌先生からいただきました。有難うございました。今年度導入される手術用ロボットの積極的活用が、産婦人科でしっかり取り組んでくれるそうです。使いやすく、サポートをされやすい汎用性のある機種がよさそうです。新病院の完成は2029年を目指すと、初期の予定より2年遅れでしょうか。全力でお願いします。

日本医療機能評価機構による第三者評価受診(令和6年2月1～2日)を受けられた報告をしていただきました。23ページの左 **C項目で改善を要した項目**に目が行きました。

4.3.1.「職員への教育・研修を適切に行っている」課題と思われる点を書かれています。新病院で医療スタッフがどのように生き生き活躍するのか楽しみです。看護職員の定着に、非常に大切なのはNHK朝ドラの再放送「ちゅらさん」の主人公が担当者になって苦勞する**プリセプター**制度。就職して1か月後に始まるのでしょうか、マンツーマンで実地教育・研修がされます。しかし夜勤や準夜で勤務時間が合わないとうなるのでしょうか？当直のない師長、副師長さんの方が適任でしょうか？ **新人定着率向上、離職者の低減を大切に。**

安藤 仁

(編集委員)

栗本 清伸	安藤 仁
加美川 誠	須澤 利文
箕岡 康明	松尾洋一郎
久行 敦士	高場 敦久
立本 直邦	

発行／一般社団法人 三次地区医師会

発行日／令和 6 年 1 1 月

印刷／佐々木印刷株式会社



在りし日の三江線の雄姿

江の川に沿ってのどかに走る列車の雄姿。

三江線が廃止になってはや6年が経ちました。往時を懐かしく思います。

巴杏編集委員会

